TAKE FREE

国の始まり　大和の国、郡の始まり宇陀郡
宇陀の始まり「うたの」から

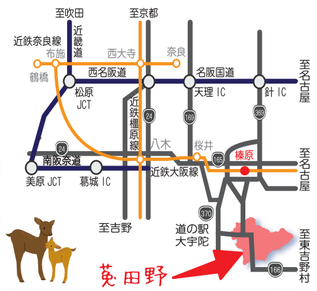
うたのテクテクMAP

町の人は、「なんもないところやねん」って言うけれど、ちょっと歩くと、いろんな"魅力"に出会えます。由緒ある神社やお寺、パワースポット、古墳やマニア必見の城跡、古事記日本書紀に出てくる地名や史跡を巡れるなんて、なかなか出会えない刺激がいっぱい！
自然に囲まれた古民家が並ぶ風景や文化、そんな「風情」ただよう町「うたの」を巡って肌で感じてみませんか♪

㏌ 菟田野って、こんなところです

奈良県の東南部、ちょっと行けば三重県という山間地に位置します。
最寄りの駅は、近鉄大阪線「榛原」駅。特急も停まります。菟田野へは駅から、車・バスで20分で到着します。駅からサイクリング、またはバスで最寄まで来てからハイキングを楽しむのに最適な町です。

アクセスMAP



- 車で
  - ●大阪方面から
    - 西名阪経由、名阪国道針ICから国道369号で
    - 近畿道、南阪奈道路経由、国道165及び166号で
  - ●三重方面から
    - 名阪国道針ICから国道369号・県道31号で
  - ●和歌山・吉野方面から
    - 国道370号及び166号で
- 電車で
  - ●近鉄難波駅から
    - 近鉄大阪線で榛原駅（約1時間）
  - ●近鉄京都駅から
    - 近鉄京都線で大和八木駅乗換、近鉄大阪線榛原駅（約1時間20分）
  - ●近鉄名古屋駅から
    - 近鉄名古屋線・大阪線で榛原駅（約1時間50分）
  - ○近鉄「榛原駅」から
    - 奈良交通バスで約20分 菟田野行、又は　東吉野村役場行に乗車

公共交通問合先

【電車】
近鉄旅客案内テレフォンセンター
大　阪06-6771-3105
名古屋052-561-1604
榛原駅0745-82-0021

【バス】
奈良交通榛原営業所0745-82-2201
【タクシー】
奈交宇陀タクシー0745-82-0155
古宮タクシー　0745-84-2020

観光
ボランティアガイド
窓口
宇陀市観光課
0745-82-8000（代）

レンタサイクルあります

市内他レンタルポートへの返却も可能です

レンタル時間	午前10時～午後4時
料金	4時間 1,000円 1日 2,000円
貸出返却場所	奈良カエデの郷ひらら　月曜定休 宇陀市菟田野古市場135－2 TEL：0745-84-2888 （最寄バス停「古市場水分神社」）

市内他レンタサイクルポート
【榛　原】観光案内所「うだ観処」0745-88-9049
【大宇陀】道の駅宇陀路大宇陀　0745-83-0051
【室　生】道の駅宇陀路室生　0745-97-2200
【室　生】室生地域事務所　0745-92-2001
※その他サイクルポートの場所定休日に関しては、直接、お電話でお確かめください。
※菟田野以外のポート営業時間は午後5時まで。

お問い合わせ
菟田野まちづくり協議会　☎0745-84-2524
〒633-2221 奈良県宇陀市菟田野松井486-1　菟田野地域事務所内

改 2019.05
改 2018.12
作 2017.03

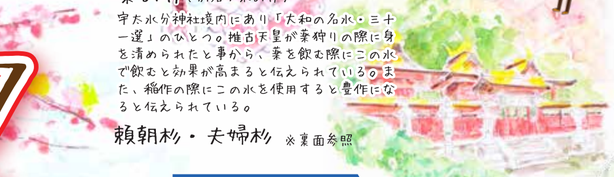
1 宇太水分神社（うだみくまり）

紀元前90年、第十代崇神天皇の勅祭と伝えられており、古くから水の守り神として信仰を集めてきた。大和朝廷が飛鳥に置かれたころ、大和の国の東西南北（宇太、葛城、吉野、都祁）を守護する水分神の一座とされた。2003年に平成の大造営が行われ、2004年に本殿の彩色が見事に復元された。鎌倉時代末期の元応2年（1320年）に建造された本殿は、国宝指定、摂社は重文指定を受けている。

菜の井（別名：米の井）

宇太水分神社境内にあり「大和の名水・三十一選」のひとつ。推古天皇が菜摘りの際に身を清められたと事から、菜を飲む際にこの水で飲むと効果が高まると伝えられている。また、稲作の際にこの水を使用すると豊作になると伝えられている。

頼朝杉・夫婦杉　※裏面参照



2 水分桜（みくまりざくら）

芳野川沿い堤防500mに約100本のソメイヨシノ並木。1959年（S34）伊勢湾台風後に植えられた。

33 妙覚寺（みょうかくじ）

浄土真宗大谷派宗意山。永久2年（1220年）に草堂建立。貞享2年（1685年）妙覚寺の寺号を承った。本尊は阿弥陀如来立像。

25 古市場城址（ふるいちば）

別名「弁ンジロ山」。西法寺西背後に位置する見張機能を担った陣城と思われる。
※道の整備不良の為、進入不可。

26 天国の井戸（あまくにのいど）

わが国最初の刀剣師といわれる「天国」が住んでいた地。刀工「天国」は、大宝年間（701-707年）、この井戸の霊水をもって数多くの名刀、神鏡を鍛えたと伝えられる。

27 不動塚古墳（ふどうづかこふん）

6世紀中葉の古墳群。円墳と前方後円墳の計3基が連なる大型古墳群である。

28 伝安楽寺廃寺跡（でんあんらくじはいじあと）

奈良時代の古瓦が出土する宇陀市郡最古の寺院。高台に位置し、山並みの眺望よく観月や星鑑賞に適した場所である。

29 周老王古墳（しゅうおうのはか）

神武天皇と戦って敗れた周老王の墓と言われている。周老王とは、首露王（朝鮮半島南部伽羅国の始祖と伝えられる王）と同一か？謎をよぶ。

30 菟田の高城（うだのたかぎ）

神武天皇が、熊野から八咫烏に導かれ、最初に陣を置いたといわれる城址「菟田の高城」。日本最古の城跡である。

31 桜実神社（さくらみ）

木花開耶姫命を祀る。延喜式神名帳に比定される古式ゆかしき神社です。境内には、神武天皇が陣を張った際に植えたと伝えられ、杉の老木が目を引きます。

八つ房杉　※裏面参照

3 奈良カエデの郷ひらら

平成18年3月に廃校となった旧宇太小学校跡地を利用し、宇陀市が管理するカエデ植物園。1200種3000本のカエデ群には、世界でも珍しい種がある。廃校になった校舎の一部を見学できるほか、各種イベントの開催、また限定で給食ランチなどを提供する喫茶レストランもある。

山の神さん　※裏面参照

カエデ鑑賞おすすめの時期は、秋だけでなく春もきれいっ☆様々な新芽の色にビックリ♪ですよ☆

4 見田大澤古墳（みたおおさわ）

菟田野の見田と大澤地区にまたがる標高370mの尾根に築かれ、前方後円墳など4基からなる古墳。4号墳から出土した四獣鏡は、それまで発見が5世紀以降に限られていた通説を覆る結果となり最古級の古墳群とされている。また、1号墳から出土した土師器によって4世紀前半の築造と推定されている。1980年（S55）の発掘調査により、四獣鏡、ヒスイの勾玉、剣などの副葬品も出土しており、古代宇陀の中心的存在の地ではないかと考えられている。菟田野地域には、縄文弥生時代の遺跡15か所、古墳40基余りが点在している。

5 見田城址・利慶城址（みたとかま）

榛原澤の澤城出城かと思われる。土塁や郭、掘等が少なからず残っている。
※見学時は、地権者に了解を得る事。

6 平井城址（ひらい）

榛原澤の澤城出城または陣城的役割かと思われる。土塁や郭、掘等が残っている。

7 六柱神社（むつはしら）

伊弉諾・伊弉冉の神をはじめ、六神の神が鎮座する神社。

8 皇太神社（こうたい）

由緒不詳、天照大神・天児屋根命・高御皇産霊神を祀る。

9 平井大師寺（ひらいたいしじ）

高野山真言宗、若谷山「大師寺」。創建年代など不明。本尊は阿弥陀如来坐像、他に薬師如来坐像・弘法大師坐像を安置している。梅雨時期のあじさい群も美しい寺である。

10 平井大師山石仏群（ひらいおおたいしせきぶつぐん）

平井の大師山に残る四国八十八カ所を模した霊場。墓石の石工、月波の佐吉照信が弟子たちと共に刻んだもので、約100体の石仏が大師山をとりまいています。名石仏には本尊を浮き彫りにして、本尊の仏名、霊場番号、霊場名をきざんでいます。また、この霊場は、嘉永、安政の頃（1848～1859）に各地の施主によって寄進、建立された。

11 神御子美年須比命神社（かみのみこみとしすひめのみことじんじゃ）

「三輪の奥宮」と称されている。
寛平5年（893）にお隣桜井市三輪「大神神社」の分霊を遷し祀られた。村名も大神と呼ぶようになったと伝えられている。大神神社の鎮花祭の百合根、率川神社の三枝祭の笹百合も、この神社から補助として供えられる。また当社氏子が収穫した小豆が毎年大神神社に奉納されている。
昔は、社殿もなく後方の山を御神体として拝んだとのこと。

12 六地蔵石幢（ろくじぞうせきどう）

六地蔵は、魔除けとして集落の入口に建てられた。仏教の六道輪廻の思想（全ての生命は6種の世界に生まれ変わりを繰り返すとする）に基づき、六体の地蔵が石幢に彫られている。室町時代以降に多く、これは江戸時代元禄三年（1690年）のもので、事例は少ない。

13 丹生神社（にゅう）

祭神は、水波能売神。本殿東側の小宮は、安産祈願の神として祀られている。

32 常盤御前岸の岡

常盤御前と三児が身を隠した屋敷。

10 平井大師山石仏群（ひらいおおたいしせきぶつぐん）

平井の大師山に残る四国八十八カ所を模した霊場。墓石の石工、月波の佐吉照信が弟子たちと共に刻んだもので、約100体の石仏が大師山をとりまいています。名石仏には本尊を浮き彫りにして、本尊の仏名、霊場番号、霊場名をきざんでいます。また、この霊場は、嘉永、安政の頃（1848～1859）に各地の施主によって寄進、建立された。

11 神御子美年須比命神社（かみのみこみとしすひめのみことじんじゃ）

「三輪の奥宮」と称されている。
寛平5年（893）にお隣桜井市三輪「大神神社」の分霊を遷し祀られた。村名も大神と呼ぶようになったと伝えられている。大神神社の鎮花祭の百合根、率川神社の三枝祭の笹百合も、この神社から補助として供えられる。また当社氏子が収穫した小豆が毎年大神神社に奉納されている。
昔は、社殿もなく後方の山を御神体として拝んだとのこと。

12 六地蔵石幢（ろくじぞうせきどう）

六地蔵は、魔除けとして集落の入口に建てられた。仏教の六道輪廻の思想（全ての生命は6種の世界に生まれ変わりを繰り返すとする）に基づき、六体の地蔵が石幢に彫られている。室町時代以降に多く、これは江戸時代元禄三年（1690年）のもので、事例は少ない。

13 丹生神社（にゅう）

祭神は、水波能売神。本殿東側の小宮は、安産祈願の神として祀られている。

32 常盤御前岸の岡

常盤御前と三児が身を隠した屋敷。

14 入谷金兵衛の墓（にゅうだにきんぺえ）

南朝・後醍醐天皇の忠臣・入谷金兵衛の墓。金兵衛は、南北朝の闘いのおり、御嶽山の山中オウバイの地から吉野方面に「のろし」をあげて敵方の動向を知らせていた。ここは芳野城を望見する景勝の地である。

15 常盤御前の腰かけ石（ときわごぜん）

常盤御前は源義朝の妻であり、源義経の母。義朝が平治の乱（1159年）で亡くなり、常盤は、京都から義経ら3人の子どもと菟田野へ難を逃れてきた。当時菟田野は、源氏の勢力が強く、義経の家来 源有綱（義経の娘婿）の終焉の地とも伝えられています。

16 松林院（しょうりんいん）

中将姫物語ゆかりの地。（物語は最下段参照）
身がわり地蔵
別名、首切り地蔵。いくら繋いでもいつしか、首が落ちてしまう。

17 芳野城址（ほうの）

18 芳野下城址（ほうのしも）

17・18番とも、宇陀三将（秋山・澤・芳野）のひとり芳野氏の城。鎌倉時代から南北朝の約200年間城が築かれていた。土塁・郭・堀などが残っている。

19 補陀寺観音（ほだじかんのん）

聖武天皇の時代、藤原豊成が神をし、長谷寺観音立像を模倣安置し、堂塔を建立した。

20 惣社水分神社（そうじゃみくまり）

重要文化財指定の神輿一基がある。制作は南北朝時代と推定される。例大祭は10月第三日曜、中社宇太水分神社へのお渡りがある。

21 ほたる公園

芳野川に沿って、初夏にゲンジ蛍が舞う姿は圧巻である。時折キャンプを張る姿も見る。

22 きつね石

この石の上で、きつねが女に化けて出たらしい。「宇賀志の行きたい、きつね石怖い、板屋・御門の門見たい」という歌が残っている。
※板屋・御門とは、宇賀志地域の有力者であり大きな屋敷であった。

34 正覚寺（しょうかくじ）

浄土真宗本願寺派本善寺末 無量山。慶長3年（1598）に本山から本尊を下付され、宝永5年（1708）に寺号を賜る。本尊は阿弥陀如来立像（康雲作）

35 岩端の桜（いわはし）

芳野川に沿って、初夏にゲンジ蛍が舞う姿は圧巻である。時折キャンプを張る姿も見る。

36 神武天皇聖蹟 菟田穿邑顕彰碑（じんむてんのうせいせき うだのうがちのむらけんしょうひ）

紀元2600年（昭和15年）春祝の事業として、当時の文部省の肝いりで、神武天皇ゆかりの地に建てられた碑。碑裏には「神武天皇即位年（つちのえうまのとし）年頭 八咫烏（やたがらす）の導（ごうどう）に依り 道臣命を皇軍の将として菟田穿邑に至り給えり聖蹟は此の地方なるべし」と記されている。

24 日張山 青蓮寺（ひばりやま せいれんじ）

日張山の中腹にひっそりとたたずむ浄土宗の尼寺。建立以来1200年の間このままの姿ではなかったろうかと思われる周囲の景観。奈良朝の時代、右大臣藤原豊成公の娘中将姫にまつわる、哀れにもゆかしい物語を今日に伝え、父との不思議な再会から、この寺を別名「再会寺」と呼び、遥いたい人との再会の夢叶う寺としても人々から親しまれている。

Design and Hand-painted illustrations by F.Komatsu. 2016

23 宇賀神社（うが）　大殿の跡・血原橋

神武伝承の地。宇賀魂神（兄宇迦斯（エウカシ））と天照大神を祭神としている。
神武東征の途次、宇陀の地を押さえるべく八咫烏を遣わして、「天神の御子が来られる。汝らは仕えよ」と通知してきた。兄宇迦斯は鏑矢を以て遣いを射た。そうして軍を集めようとしたが、集まらず、策を講じて、仕えるとして、大殿に迎えて押機を作って待ちかまえることにした。ところが弟宇迦斯は「僕の兄が大殿におびき寄せて討ち取ろうとしています」と兄を裏切った。道臣命と大久米の命が兄宇迦斯を大殿に失に入れて押し殺した。血が流れて血原と言う。
宇賀志の地に祀られている地主神である宇迦斯神魂は、当地に長く記憶に残った兄宇迦斯の御魂とするのが似合う。また宇賀志には水銀鉱山があり、昔は辰砂※が露出し土壌が赤い色をしていた場所があったのだろう。それを血原と言ったのかも知れない。
※辰砂（シンシャ）とは、水銀の鉱石を示す。色は朱色。

こもうけ石

境内にある手洗い石は、陰陽の形をしている（台が陽石、上に乗る鉢石が陰石）。夫婦でこの石を撫でると子宝を授かると伝えられている。

漢方薬「中将湯」の由来
"かくまってくれたおれに"と中将姫から製法を教えて頂いたのが起原とか!?
木々に囲まれた山寺で、中将姫を思ってみてはいかがでしょう。

大和の一番！「神武東征」の始まりはココ！

古事記・日本書紀にみえる神武天皇東征及び大和平定の物語の伝承にまつわる聖地が多々ある菟田野。エウカシ・オトウカシや久米歌が詠まれた地などを今も巡れる。

中将姫が幼少期を過ごした尼寺が今も残る！

中将姫は、奈良時代の右大臣藤原豊成公の娘で、幼くして母を失い、継母に育てられた。
継母から疎まれ、ひばり山に捨てられたが、武士松井嘉藤太の情により危うきを助けられた。その後、父と再会し一度は都に戻ったが、姫の願いにより当麻寺に入り、称讃浄土経の一千巻の写経を達成、十七歳で中将法如として仏門入り、一夜にして蓮糸曼荼羅を織りあげた。
日張山青蓮寺は、中将姫19歳の夏再び山に登り、堂を建立し、自らの影像と、嘉藤太夫婦の形像を手づから刻み安置してた尼主の山寺。